

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 らふえ〜る		
○保護者評価実施期間	令和7年12月10日		～ 令和8年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和7年12月10日		～ 令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月22日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	カリキュラムの内容が充実しており、5領域（健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）を意識し様々な経験を積むことが出来る。	専門的な資格を持った職員が、全員でカリキュラム立案を行っている。内容に偏りがないよう、日々工夫を凝らし、かつ楽しんで取り組める活動を企画している。	今後もニーズや要望に応じ、利用児の自立に向けた適切な支援提供を行っていく。
2	自分の思いを伝えるための視覚提示や、利用児が遊びたいものを選ぶ経験ができるよう視覚提示を行っており、利用児にとって分かりやすい環境設定となっている。	分かりやすい視覚提示を考え、作成と設定を行っている。利用児に合わせて都度変更や、工夫を行っている。また、毎日清掃と消毒、片づけを行い、過ごしやすい環境作りに努めている。	利用児の意思、保護者の意思を大切にし、安心して通いながら、より自己表現ができる機会を設けていく。
3	それぞれの発達段階や家庭の価値観に合わせて、保護者の困りごとや相談に応じ、共感し寄り添いながら、保護者に対応している。	面談や電話、送迎時などの保護者からの相談事に応じ、解決に向けて助言と協力体制を築いている。	利用児のご様子はもちろん、保護者のお話や意見も丁寧にヒアリングしていく。その上で意見を反映し、より通いやすい環境づくりと相談や支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域での行事参加や交流の場が少ない。	地域活動の情報収集が不足している。	地域の活動を情報収集し、参加できる機会を設けていく。
2	外遊びの機会が少ない。	園庭がなく、気軽に外に遊びに行ける環境が少ない。	室内でできる運動の活動を増やす。また、付近の公園やお散歩に行く機会を増やしていく。
3	保護者参加型のイベントの提供がない。	保護者が参加したいイベントの聞き取りが行えていなかった。	保護者に事業所が取り組んでほしいイベント内容の聞き取りを行い、開催に向けて段取りを組んでいく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援 らふえ〜		公表日	R8年 2月 17日		利用児童数	回収数 33	
チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	30	2	1	・少し狭いように感じるが、活動はできていると思う。	・引き続き整理された環境づくりと工夫をしながら活動を行っていく。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	28		5	・何名配置されているかよく知らない。 ・実際の利用中の様子を見ていないのでわからないが、信頼して利用しているのも問題ないと思っている。	・引き続き適切な人数を配置していく。 また保護者への周知も行う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28	2	3		・整理整頓を行い、分かりやすい掲示物などの工夫を行っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33			・いつも清潔だと感じている。	・掃除を徹底し、衛生管理を適切に行う。	
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	28	2	3	・通所してから驚くほどの成長を感じている。一人ひとりにあった支援をしている。	・引き続き一人ひとりに合わせた、専門性のある支援を行っていく。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	32		1		・引き続き、プログラムに則した支援内容の提供を行っていく。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	31	1	1	・しっかり面談などで話し合い、子どものことを理解してくれている。 ・早めのフィードバックがあると嬉しい。	・引き続き保護者との面談、アセスメントを通して、計画書の作成を行っていく。また、早めに面談や説明の時間を設けていく。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30		3	・半年に1回面談の機会があるので、支援方法や目標の認識がしやすい。	・引き続き、支援計画に必要な項目を記載し、面談等で保護者との共通理解のもと目標設定していく。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	29	2	2		・支援計画を職員間で共有し、計画に沿って支援を行っていく。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	31		2		・固定化されないよう工夫し、利用児が楽しみながら身に付けていけるような内容を行っていく。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	2	5	14	・今後検討していく。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33				・引き続き、保護者にわかりやすい説明を行っていく。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33				・今後も支援計画を提示、説明し、保護者にも確認していただきながら、説明を行っていく。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	5	6	10	・支援方法などの情報提供はある。研修会や父母交流などがあれば行ってみたい。	・支援の方法を学びたいとの意見があったので、今後実現方法を検討していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	30	2		1	・話す機会が少ないことがネック。 ・出来たことだけでなく、難しかったことや、伸ばしていきたい箇所を共有して欲しい。	・送迎時や難しい時には電話など、都度保護者と利用児の状況確認を行い、共通理解を増やしていく。 ・取り組み内容の詳細や、これからの課題点もお伝え行う。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28	1		4	・利用期間が短いため、まだ面談の機会がない。	・引き続き半年に一回の面談のほかにも、電話、送迎時などに助言を行っていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	31			2	・質問したことに対して、迅速に対応してもらっている。	・保護者や利用児の考えに共感し、支援を行っていく。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	3	10	17	・参加した経験はないが、実施されるなら参加してみたい。	・今後保護者会などのイベント開催を検討していく。	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	1		4		・相談に関して迅速に対応していけるよう努める。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	30			3		・引き続きLINEや電話にて情報共有を行っていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	5	1	12		・活動内容や行事予定、自己評価の結果を発信していることを、わかりやすく保護者に伝えていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30			3		・引き続き個人情報は適切に取り扱っていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26			7		・マニュアルを作成し、訓練を行っている。保護者にもその旨を発信していきけるよう努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18			15	・避難訓練はしていると思うが、実施後に分かりやすく発信してくれると嬉しい。	・安全な過ごしを提供できるよう非常時に備えた訓練を行っている。保護者にもどのような訓練を行ったか伝えていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26			7		・安全計画を作成している。保護者への周知も行っていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28			5	・そのような状況になったことがないため分からない。	・引き続き迅速に連絡し、状況説明を行っていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	30	2		1	・先生たちが大好きで、自らバックを準備して抱き着きに行っている。	・今後も安心して通所できるよう、環境設定やカリキュラムの立案、活動を行っていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	29	4			・特に土曜のクッキングやイベントをすごく楽しみにしている。	通所を楽しみにしているとの意見を頂き、今後もより一層楽しく通っていただける事業所を作っていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	1			・いつもありがとうございます。今後もよろしくお願ひします。	支援に対し満足しているとの意見を頂いており、今後も満足度を高めていけるよう日々の支援に努めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 らふえへる					公表日	R8 年 2 月 17日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		十分に確保できている。	引き続き、見学、体験時に室内を見ていただく機会を設けていく。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		利用人数に適切な人員配置を行っている。	適切な配置を継続的にやっていく。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		各利用者にとってわかりやすく、必要に応じて視覚提示を行っている。中1階にあるので、階段があるが、室内はバリアフリーになっている。	今後もより良い環境設定や視覚提示を行い、利用児が安心して過ごせる環境を提供していく。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		室内清掃や、換気、消毒を行っている。また活動内容に応じて空間を構造化している。	今後も清潔に保ち、安心して過ごせる空間にしていく。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		個別対応が必要な場合、対応することが可能となっている。	事業所内の空間を使用し、用途に合った環境提供を行っている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		朝夕のミーティングの際、目標を設定し、都度振り返りを行っている。全職員が確認、参加できるようにしている。	さらに積極的にやっていきたい。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		朝夕のミーティングの中で、保護者等の意向を把握し、業務改善に向けての意見交換を行っている。	保護者様からいただいた意見を大切に、業務改善に努めていく。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		朝夕のミーティングにおいて、意見交換を行っており、業務改善に繋げている。	職員の意見等を大切にしつつ、利用児が過ごしやすい環境提供や必要な支援について検討していく。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9		外部評価は行ってないが、定期的な研修などで業務改善に取り組みよう努めていく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		社内研修、外部研修に参加し、よりよい支援とは何かを考え実践に繋げている。	全職員と研修内容の共有を今後も継続的にしていく。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		月間スケジュールにて、支援プログラムを作成し、5領域を大切に内容を行っている。またその旨を保護者に開示している。	5領域に則した内容を行っていけるよう、今後もプログラムを作成していく。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		定期的な面談を行い、支援目標などについてスタッフ間で検討し、支援計画を作成している。	引き続き利用児のニーズや課題を共有し、共通理解のもと、支援計画の作成を行っている。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		職員間で話し合い、共通理解を持つこと、また利用児の最善の利益を検討し、作成を行っている。	今後も職員全体で支援計画の見直しを行い、必要に応じて支援内容を検討していく。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		支援計画の内容を職員全員が把握し、支援を行っている。	今後も支援計画に沿った内容の支援を行っていけるよう、職員間での共通理解を深めていく。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		アセスメントシートを使用した聞き取りや、日々の活動の記録を行っている。	今後も利用児の状況を把握をし、時々合わせた支援を行う。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」を踏まえながら、必要な目標設定を行い、支援内容を作成している。	保護者、利用児の意見を大切にしつつ、必要な支援計画の内容作成を行っている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		職員全員でプログラムを立案している。	引き続きチームで話し合い、必要なプログラムの立案を行っている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		プログラムを固定化させず、多様な内容を実施している。	引き続き多様な経験を積むことができるよう、固定化せず行っていく。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	個別活動と集団活動を組み合わせた計画を作成し、実施している。	集団での生活に活かしていける支援計画作成と支援を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	朝のミーティングにて、支援内容や役割分担を確認し、チームで協力し支援を行う体制を構築している。	日々の打ち合わせでの職員の意見を大切に、チーム力を高め、支援を行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	夕方ミーティングを行い、振り返りや気付いた点を話す機会を設けている。	職員間での意見交換を大切に、今後の支援に必要な内容を検討していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	日々の支援記録を保存しており、支援の検証や改善に繋げている。	引き続き検証と改善を行っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	半年に一度モニタリングを行い、必要に応じて見直しをしている。	保護者の意見、本人の意見を大切に、支援計画の作成に活かしていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	利用児の状況を理解した職員が参加している。	引き続き状況をしっかり把握し、支援者会議に参加していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	訪問看護、他機関と連携しつつ支援をしている。	健康状態の把握をし、訪問看護師と連携し、利用児の過ごし方に活かしていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	他事業所と連携し、地域生活を大切に支援を行っている。また利用児が通っている幼稚園や保育園と連携し、支援内容の情報共有を図っている。	関係機関との関わりを大切に、利用児の最善の過ごし方に活かしていけるよう、情報共有を行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	小学校教諭の訪問の受け入れや、電話連絡を行い、情報共有を図っている。	利用児が移行しやすいよう情報共有していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	児童発達支援センターとの連携は行っていない。	情報共有やスーパーバイズを受ける機会を設けられるよう検討していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流は行っていない。	保育所や認定こども園、幼稚園との交流に関して検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	面談、電話、送迎時にて利用児の状況や課題に対して、共通理解を持っている。	保護者との情報共有を大切に利用児の状況把握に努めていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	ペアレントトレーニング等は行っていないが、研修の機会に関して、パンフレットを配布するなど情報提供を行っている。	研修の案内などの情報提供や各家庭での対応力の向上を図っていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	各保護者にわかりやすく説明を行っている。	引き続き丁寧で分かりやすい説明を行っていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	面談を通して、保護者の意思、本人の意思確認を行い、意向を確認する機会を設けている。	面談や日々の相談事を、支援計画に活かしていけるよう努めていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	書面を提示し、説明を行い、同意を得ている。	引き続きわかりやすく説明を行い、保護者、本人の意向に沿った支援計画の作成に努めていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	相談に応じ、必要な助言を行っている。	引き続き保護者に共感しつつ必要な助言を行っていく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	保護者会の開催は行っていない。	開催に向けて、検討していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	相談や申し入れがあった場合、迅速かつ適切に対応を行っている。	引き続き、適切かつ迅速に対応できるよう努めていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	ホームページなどでの発信は、個人情報の観点から行っていない。連絡帳や個々のラインにてご様子や予定をお伝えしている。	より保護者にわかりやすく発信していけるよう努めていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	個人情報は適切に取り扱っている。	引き続き十分注意しながら取り扱っていく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	視覚提示等を用いて、意思疎通や情報伝達を行っている。	より分かりやすく伝わりやすい配慮を行っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	地域住民の招待は行っていない。	今後開催に向けて、検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	マニュアルを作成し、訓練を実施している。	保護者への周知も適切に行い、訓練も実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	業務継続計画を策定し、非常時の訓練も行っている。	引き続き安全に利用児が過ごせる環境を構築していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9	保護者と連携し、利用児の体調を確認している。	利用児の過ごしをより安全なものにしていけるよう、状況確認を保護者に行っていく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	医師の指示書に基づいた対応を行っている。	家庭や医療機関と連携しながら支援をしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	利用児の安全な過ごしが提供できるよう、安全計画の作成、また研修や訓練を行っている。	利用児にとって必要な支援を講ずるため、安全面を確保していけるよう、職員一同努めていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	保護者と連携し、利用児の安全確保を行いながら、支援をすることを説明している。	より分かりやすい説明を行い、安心して利用児を預けていただけるよう努めていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	ヒヤリハットを作成し、再発防止に努めている。	職員全員で情報共有を行い、再発防止に努めている。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	研修の機会を確保し、虐待防止に対して、適切に対応している。	引き続き研修などの学びの場を設け、適切な対応を行っていく。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	身体拘束は行っていない。	利用児にとって安全に過ごせる環境を提供していく。	